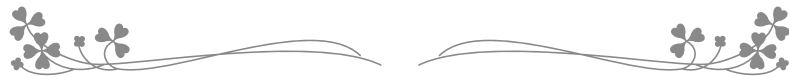




2019年度 事業報告

社会福祉法人 いのちの電話



はじめに

新型コロナウイルスの発生で、日本全体が、そして世界が日常生活や社会生活に大きな影響を被っております。いのちの電話の活動に温かなご支援とご協力を頂いております皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。さて、事業報告をさせて頂く時期となりました。今年度もお蔭様でいのちの電話の活動を続けることが出来ました。改めまして厚くお礼申し上げます。

1971年に無償ボランティアによる24時間体制の電話相談、1972年には各科医師の無償ボランティアによる土曜医療電話相談、1973年には面接室（後の小石川センター）を開設するなど、歴史を刻んできた「いのちの電話」の活動が来年50年の節目を迎えます。孤独の中で人の温もりを求めてかけてこられる方々にとって、電話やインターネットによる語らいを通して少しでも心の安らぎの時間となることを、そして生きていく力になることを願っております。

電話相談の最近の特徴として、30～50代の女性の利用者が65%近くあることが挙げられます。1974年当時は10～20代からの相談は37.4%でした。開設当初若者世代だった方々が、現在は子育てや親の介護、ご自身の心身の健康など輻輳した問題となって不安や悩みを抱えての相談に表れているのではないのでしょうか。現代社会が抱えている課題を先取りしていると言われている電話相談ならではの現象です。

東京いのちの電話の事業として、若者の電話離れに 대응べくインターネット相談を行っておりますが、今年度から地域連携プログラムの出前研修という新たな取り組みを始めました。いのちの電話の研修を直接担っているボランティア・リーダーが中心となって、これまで培ってきた研修プログラムを地域社会で生かして頂く機会として企画・実施したものです。教育機関や子育て・介護・自立支援に取り組んでおられる団体を主な対象としております。いのちの電話の広報活動ともなるこの取り組みの充実化を目指したいと思います。

東京いのちの電話は、1973年に、我が国で初めて電話相談事業での社会福祉法人の認可を受けました。一般市民のボランティアによる“良き隣人”としての活動を、ボランティアであることの良さと社会的責任を果たすという設立当初からある意識と誇りをもって歩んで行きたいと思っております。今後も引き続き温かなご支援とご協力をお願い申し上げます。

社会福祉法人いのちの電話
理事長 末松 渉

目 次

はじめに	1
社会福祉法人いのちの電話の基本活動方針	2
2019年度 社会福祉法人いのちの電話概況	2
2019年度 活動内容	3
2019年度 相談の実態とその傾向	4
電話相談	4
土曜医療相談	5
フリーダイヤル	5
インターネット相談	6
2019年度 決算報告	7
2020年度 予算書	7
2020年度 事業計画・役員	8
後援会	9

社会福祉法人いのちの電話の基本活動方針

社会福祉法人いのちの電話は、苦悩の多いこの時代にいきるものが互いによき隣人となって、ひとりひとりのいのちを大切にしようという思いから生まれました。

「いのちの電話」は、思いを同じくする多くのボランティア相談員によって「電話」「インターネット」を通じた対話を中心に次に掲げる事項を基本として活動します。

- 一、「いのちの電話」は、すべての人、とくに危機に直面している人、自殺を考えている人、孤独のなかにあって、助け・慰め・励ましを求めている一人一人に向けて開かれています。
- 一、「いのちの電話」は、相談者に対してよき隣人として開かれた心をもち、親身になって対応することを基本とします。
- 一、「いのちの電話」は、相談の秘密を守ります。
- 一、「いのちの電話」は、相談者と相談員の双方の匿名性を尊重します。
- 一、「いのちの電話」は、相談者の思想、信条、信仰等を尊重します。
- 一、「いのちの電話」による電話相談は、無料です。
- 一、「いのちの電話」は、所定の研修を受けた人たちによって一日24時間体制で相談を受付けます。
- 一、「いのちの電話」は、電話相談以外の相談事業についても上記に述べた諸方針で行います。
- 一、「いのちの電話」は、主として寄付によって自主的に運営されています。

2019年度 社会福祉法人いのちの電話概況

2020年3月現在

設 立	1971年10月1日開局	活 動 内 容	電 話 相 談	インターネット相談
法 人 認 可	1973年12月		土曜医療相談	フリーダイヤル
組 織	理事11名・監事2名・評議員13名			(毎月10日)
相談員実働数	241名	相談員養成	年1回公募	
認定者累計	1,841名	相談員研修	継続研修、全体研修等	
電話相談 受信件数	21,440件(2019年1月～12月) 男 8,766件 女 12,674件	運 営 費	年間経費:約3,000万円	
総受信件数	開局以来累計 1,353,811件	機 関 紙	広報誌「いのちの電話—東京」	
相 談 時 間	24時間(年中無休)	関 連 団 体	一般社団法人 日本いのちの電話連盟	
			日本自殺予防学会	

2019年度 活動内容

I 実施した研修

- 養成研修(18ヶ月)
 - 52期生(2年目)第Ⅲ期、インターン期 ●53期生(1年目)第Ⅰ期、第Ⅱ期
- 継続研修(グループ研修2年間単位の2年目)
22のグループが、情報交換と支え合いを目的に、会話記録等をもとにしたグループスーパービジョンを実施した。
- 全体研修 於研修室300A
 - 「少年院の現場から、土曜医療相談の実際」5/19(日) 講師:小林 誠氏(多摩少年院医師) 参加者:41名
 - 「関わりにくい電話について」9/4(水) 講師:矢永 由里子氏(慶応義塾大学医学部感染制御センター講師) 参加者:22名
 - 「いのちの電話で寄り添うとはどういうことか」11/21(木) 講師:逸見 敏郎氏(立教大学教授、いのちの電話理事) 参加者:35名
 - 「いのちの電話の自殺予防」12/5(木) 講師:長谷部 俊治氏(いのちの電話理事・研修委員・リーダー) 参加者:23名
 - 「受信カードから見える相談の実態を共有し、私たちの対応を考える」20年2/6(木) 講師:リーダー会 参加者:23名
- フリーダイヤル研修 於研修室300A
 - 「傾聴ケア者の自己理解と他者理解」6/25(火) 講師:伊藤 高章氏(上智大学大学院実践宗教研究科死生学専攻教授) 参加者:31名
 - 「グループケアについて」10/10(木) 講師:若林 一美氏(ちいさな風の会代表・元立教女学院短期大学学長) 参加者:23名
- 50期～51期 移籍者及び復帰者フォローアップ研修
- スキルアップをはかるための個人スーパービジョン
 - 講師:飯島 睦子氏(元研修委員長) 岩田 淳子氏(成蹊大学教授・臨床心理士) 逸見 敏郎氏(立教大学教授・臨床心理士) 矢永 由里子氏(慶応義塾大学医学部感染制御センター講師・臨床心理士) 池谷 清子氏(研修委員) 参加者:25名
- 特別研修(11期 リーダー養成研修)2年次課程(19年3月～20年2月) 参加者:7名
- インターネット相談研修
 - インターネット相談員養成研修
講師:福山 清蔵氏・穴戸 信次郎氏(いのちの電話インターネット相談スーパーバイザー)
'19年7月～'20年1月 講義とOJT 参加者:14名
 - インターネット相談コーディネーター養成研修 '20年2月 参加者:7名
 - インターネット相談継続研修
'19年 5/11「若者の気持ちを考える」講師:福山 清蔵氏(いのちの電話インターネット相談スーパーバイザー) 参加者:21名
7/18「いのちの電話のネット相談」講師:福山 清蔵氏(いのちの電話インターネット相談スーパーバイザー) 参加者:12名
11/9「事例検討会」講師:福山 清蔵氏(いのちの電話インターネット相談スーパーバイザー) 参加者:9名
'20年 1/12 日本いのちの電話連盟主催「若者支援～現代の若者を取り巻く環境と青年期の課題」
講師:勝又 陽太郎氏(新潟県立大学人間生活学部) 参加者:21名

II 活動

- 役員会
 - 理事会 第16回～第21回(6回) '19年 4/24、5/20、6/17、9/19、10/31、'20年 3/5
 - 評議員会 第6回～第8回(3回) '19年 4/4、5/20、11/29
- 研修委員会
 - 委員会の開催(7回) '19年 4/17、6/11、8/28、11/20、'20年 1/15、2/5、3/11
 - リーダー会 定例研修会、宿泊研修、継続グループ運営、相談員のケア、スーパービジョンの研修と実施
'19年 5/29、7/29、9/28、11/29、'20年 1/25・1/26(合宿)、3/28(中止)
- 運営協議会
 - 委員会の開催 第121回～第125回(5回) '19年 5/11、7/13、9/14、11/9、'20年 1/11
- ボランティア委員会
 - 各継続グループから委員を選出し、隔月に委員会を開催(5回) '19年 5/11、7/13、9/14、11/9、'20年 1/11
内容は、相互交流、情報・意見の交換、連絡、行事への参加協力、研修への提案、組織運営への理解と提案等
 - 全体会(毎年3月)の企画(2019年度は中止)
- バザー委員会
 - 後援会主催バザー '19年10/19(土)実施。各継続グループから委員を選出 ●後援会に協力して、バザーを企画・実施
- 広報委員会
 - 年2回、機関紙『いのちの電話 東京』を発行('19年度は161号・162号)
- 財務委員会(3回)
 - 財務(予算・決算・その他) ●委員会の開催 '19年 4/18(決算案)、10/22(中間決算等)、'20年2/18(予算案)
- インターネット相談委員会
 - 委員会の開催(3回) '19年 6/1、9/14、12/7、'20年 3/7(中止)
 - コーディネーター会の開催(4回) '19年 4/11、7/14、11/20、'20年1/16

III その他

- 相談員(54期生)の募集
 - 応募者 36名 ●54期生 21名
- 感謝式・認定式・全体会(3/14土)中止
 - 永年勤続感謝:30年(24期)2名、20年(34期)5名、10年(44期)15名 ●認定者(51期)14名
- 厚生労働省事業への参加協力('19年1月～12月)
 - 補助事業「自殺予防フリーダイヤル」に参加 期間:毎月10日(朝8:00～翌朝8:00)専用電話1本 参加者:延人数:88名 受信件数:584件
 - 自殺防止対策事業オープンセミナー
「聞く力」のチカラ 講師:阿川 佐和子氏 '19年9/21(土)14:00-15:30 銀座ブロッサムホール中央会館 参加者:600名
- その他 苦情対応 事務局で対応 相談事業に対する苦情42件 ('19年1～12月)

2019年 相談の実態とその傾向

電話相談の統計から

2019年(1~12月)の電話相談受信件数は、21,440件(前年比△3.4%)であった。減少原因については、昨年同様相談員の実働数の減少が原因と思われる。男女比(男性8,766、女性12,674)は、女性からの相談が多い傾向に変化は見られなかった。自殺傾向は、前年度比で若干減少したが、若年層(10代~30代)の自殺傾向率が高いことに変わりはない。また、相談を利用した年代は40代が最も多く、次に50代、60代と高齢者が多いが、10代の相談も若干数増加した。受信件数の内容別では、孤独や孤立で苦しい状況を訴える相談が多く寄せられた。
 *平均通話時間:29.6分(男性23.4分、女性33.8分)

表1 電話相談 年代別件数

	男性	女性	2019年 合計	2018年 合計
10代	157	135	292	244
20代	512	519	1,031	1,252
30代	1,572	1,785	3,357	3,552
40代	2,147	3,035	5,182	5,618
50代	1,927	3,201	5,128	5,188
60代	1,402	2,342	3,744	3,877
70代	203	858	1,061	890
不明	846	799	1,645	1,573
合計	8,766	12,674	21,440	22,194

図1

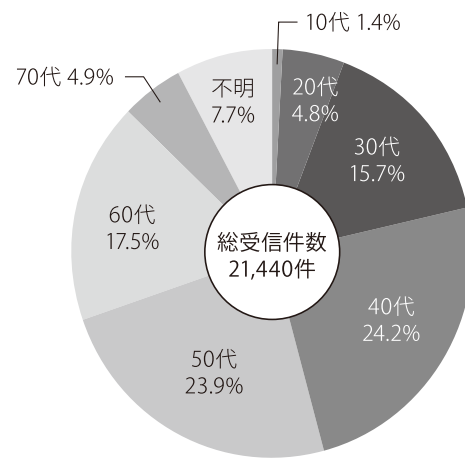
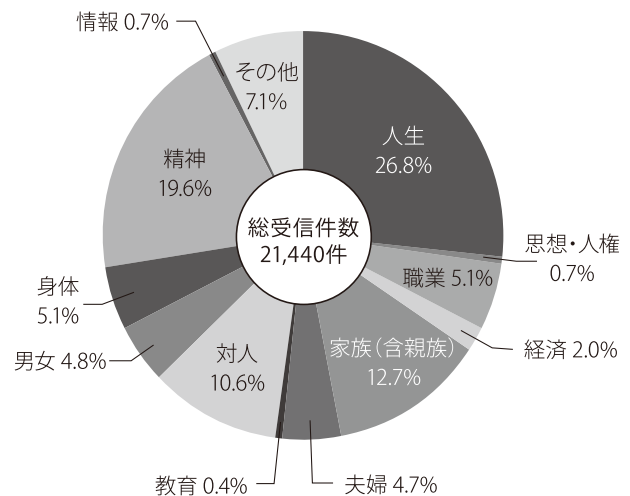


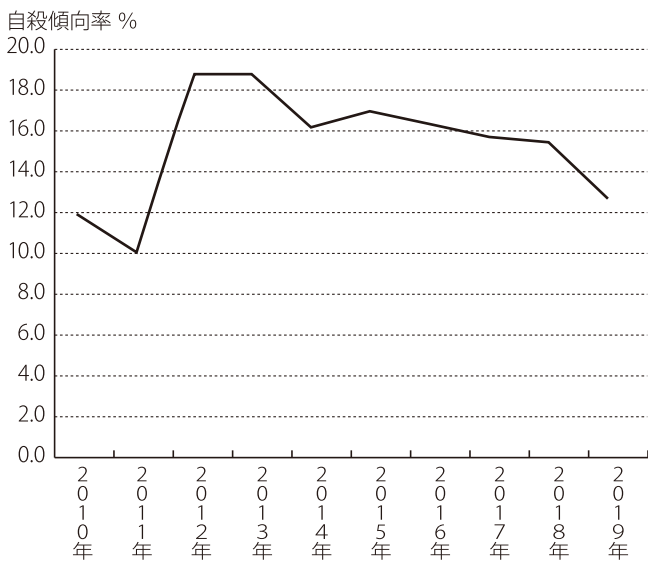
表2 電話相談 問題別件数

	男性	女性	2019年 合計	2018年 合計
人生	2,672	3,069	5,741	5,914
思想・人権	107	50	157	143
職業	548	556	1,104	1,233
経済	178	261	439	381
家族(含親族)	518	2,208	2,726	2,765
夫婦	217	782	999	1,003
教育	35	58	93	81
対人	668	1,615	2,283	2,349
男女	426	596	1,022	967
身体	382	708	1,090	1,112
精神	1,817	2,375	4,192	4,634
情報	75	78	153	184
その他	1,123	318	1,441	1,428
合計	8,766	12,674	21,440	22,194

図2

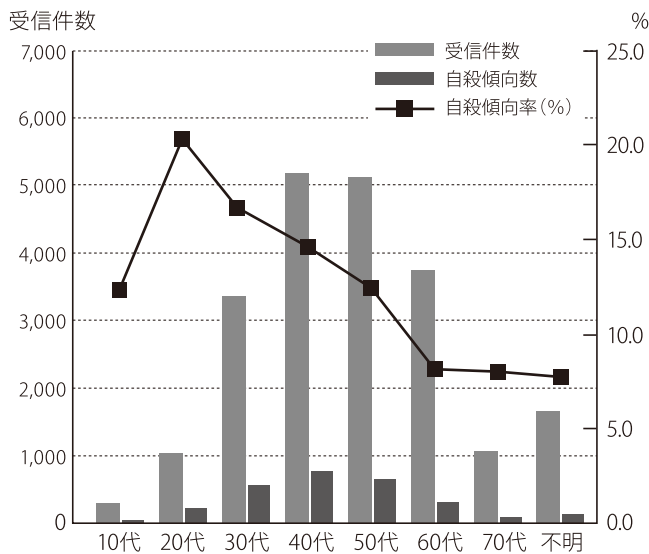


【図3】 電話相談 10年間の自殺傾向率



	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
受信件数	28,987	28,377	27,517	28,276	28,164	27,161	25,443	24,135	22,194	21,440
自殺傾向率 (%)	12.1	10.2	18.8	18.8	16.1	16.9	16.3	15.9	15.6	12.7

【図4】 電話相談 年代別受信件数と自殺傾向率



	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明
受信件数	292	1,031	3,357	5,182	5,128	3,744	1,061	1,645
自殺傾向数	36	209	562	758	638	304	85	126
自殺傾向率 (%)	12.3	20.3	16.7	14.6	12.4	8.1	8.0	7.7

土曜医療相談

カトリック医師会、キリスト者医科連盟等の医師により毎週土曜日14時～17時に行われている。

2019年の相談件数は231件(男性82名、女性149名)(男性35%、女性65%)。月毎の平均通話数は約19件である。

医療情報がネットなどで容易に得られることが影響してか、若年者からの相談は極めて少なく、全体としても相談件数は減少傾向にある。科目別では、精神科に関連した相談が半数程度を占め、全体に治療中の方からの相談が多い。

繰り返しかけてくる方が多く、疾患・医療そのものの他に、医師や家族との関係性や病を持っているための生きにくさなど、複合的な相談が多い。希死念慮のある方は少ないが、医師が直接電話で対応することで、疑問や不安を解消したり、治療意欲を持ち直すなどの支援につながることを期待したい。

【科目別】 2019年1月～12月

	男性	女性	合計
精神科(心療内科)	61	73	134
内科	22	32	54
外科(整形外科)	3	24	27
婦人科・産婦人科	0	0	0
泌尿器科	0	0	0
皮膚科	0	1	1
耳鼻科	0	2	2
歯科	0	4	4
眼科	0	9	9
小児科	0	0	0
性について	0	0	0
エイズ	0	0	0
健康相談	0	1	1
美容形成	0	0	0
その他	1	7	8
合計	87	153	240

*複数回答あり

【月別相談件数】 2019年1月～12月

	男性	女性	合計
1月	10	13	23
2月	5	15	20
3月	9	16	25
4月	10	11	21
5月	6	11	17
6月	10	9	19
7月	4	15	19
8月	10	14	24
9月	5	15	20
10月	2	13	15
11月	7	6	13
12月	4	11	15
合計	82	149	231
2017年度			311
2018年度			299

フリーダイヤル

毎月10日、全国のセンターをオンラインでつなぎ、フリーダイヤルで電話を受けている。通常電話より自殺傾向が高いこと、男性からの相談が多いことが特徴である。

	男性	女性	2019年合計
相談件数	301	283	584
自殺傾向数	70	74	144
自殺傾向率 (%)	23.3%	26.1%	24.7%
平均通話時間(分)	16	23	19

2019年1月～12月

インターネット相談

インターネット相談は、埼玉いのちの電話の運営管理により、埼玉、東京センターの共同で東京システムとして実施した。

相談返信件数は全体で1,214件(男性334件、女性845件、非開示32件)自殺傾向率は39.6%。10代から30代の若年層からの相談が約7割(67%)であり深刻な相談が多く寄せられた。うち東京センターが対応した相談は490件であった。

また、2017年10月より本稼働された日本いのちの電話連盟によるインターネット相談事業は、盛岡、仙台、秋田、新潟、栃木、埼玉、東京、川崎、静岡、浜松、愛知、奈良、愛媛、福岡、熊本センターにより実施した。相談件数は全体で1,774(男性608件、女性1,137件、その他29件)自殺傾向率は58.4%と高い傾向であった。うち東京センターが対応した相談は80件であった。

図5 インターネット相談年代別

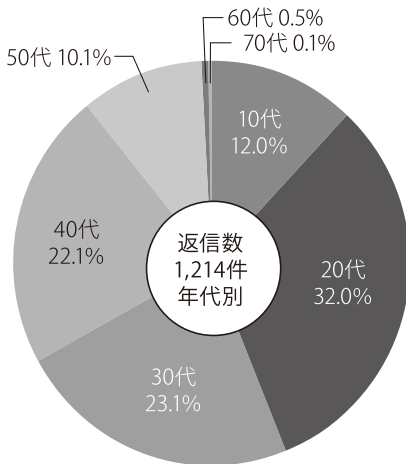
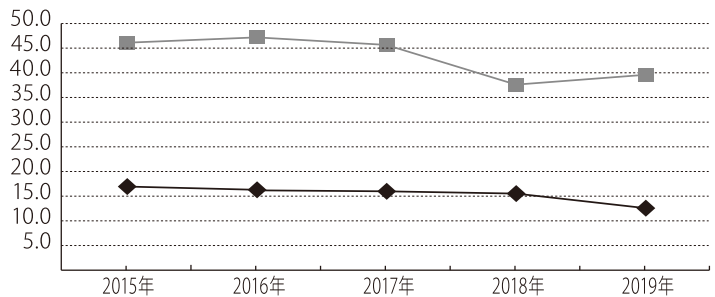


図7 過去5年間の電話相談とネット相談の自殺傾向比較



2019年1月～12月

図6 インターネット相談問題別

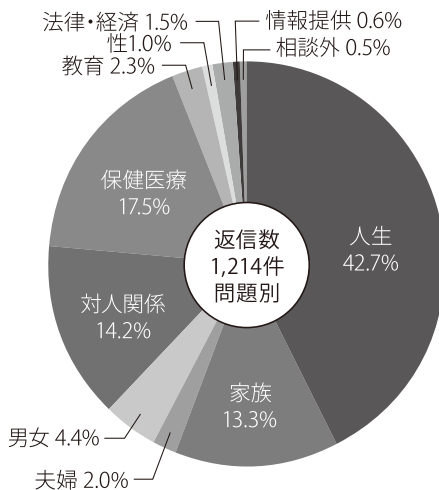
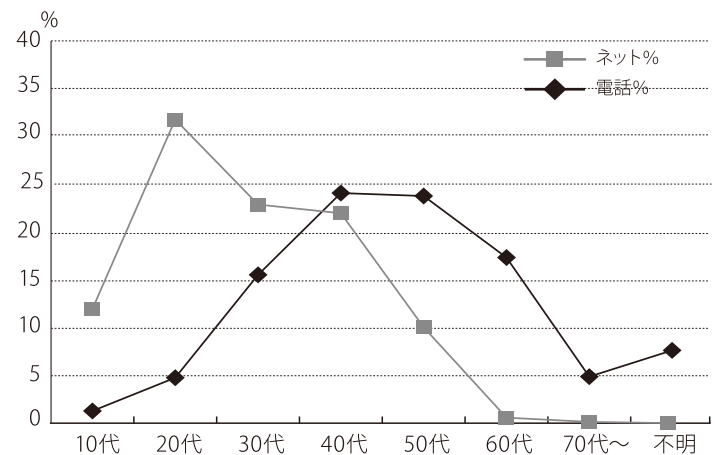


図8 電話相談とネット相談利用者の世代別比較



2019年1月～12月

2019年度 決算報告

2019年度 経常会計収支決算書 (自2019年4月1日 至2020年3月31日)

収入の部		単位:円
科 目	金 額	
賛助(団体)	11,199,631	
賛助(個人)	7,801,360	
後援会チャリティ寄付	1,500,000	
東京都電話事業補助金	1,825,000	
共同募金・年賀寄付金分配金	600,000	
研修受講料	1,669,500	
雑収入	322,711	
受取利息	12,344	
協力資金積立金取崩	47,052,299	
財政基金積立金取崩	16,000,000	
減価償却資金積立金取崩	450,000	
経常収入総合計	88,432,845	

支出の部		単位:円
科 目	金 額	
施設管理費	6,029,710	
相談員研修・ボランティア厚生費	3,681,472	
連盟連帯費	1,446,000	
通信費・交通費	1,935,648	
広報印刷費・調査研究費	341,764	
システム運用費	666,092	
事務費・人件費等	10,444,254	
什器備品費	702,618	
減価償却費	450,000	
相談事業積立金繰入	63,052,299	
当期収支差額	△ 317,012	
経常支出総合計	88,432,845	

2019年度 貸借対照表 (2020年3月31日現在)

借 方		貸 方		単位:円
科 目	金 額	科 目	金 額	
現金預金	108,257,971	預り金(公租公課・他)	58,899	
仮払金	48,000	基本金	100,000,000	
基本財産特定預金	100,000,000	固定資産基金	3,193,539	
ソフトウェア	4,401,360	その他積立金	72,552,299	
建物構築物	1	正味財産増減差額	40,096,133	
電話権利	1,355,020	(うち当期活動収支差額)	(△ 317,012)	
差入保証金	1,838,518			
合 計	215,900,870	合 計	215,900,870	



2020年度 予算書

2020年度経常会計収支予算書 (自2020年4月1日 至2021年3月31日)

収入の部		単位:円
科 目	金 額	
賛助(団体)	11,000,000	
賛助(個人)	7,100,000	
後援会チャリティ寄付	1,500,000	
東京都電話事業補助金	1,825,000	
共同募金・年賀寄付金分配金	600,000	
研修受講料	1,735,000	
雑収入	150,000	
受取利息	10,000	
相談事業積立金取崩	4,020,000	
減価償却資金積立金取崩	900,000	
経常収入総合計	28,840,000	

支出の部		単位:円
科 目	金 額	
施設管理費	6,100,000	
相談員研修・ボランティア厚生費	3,710,000	
連盟連帯費	1,530,000	
通信費・交通費	2,090,000	
広報費・調査研究費	700,000	
システム運用費	910,000	
事務費・人件費等	11,550,000	
什器備品費	350,000	
減価償却費	900,000	
50周年記念事業引当金	1,000,000	
経常支出総合計	28,840,000	

2020年度 事業計画・役員

I 基本方針

組織の直面する諸課題に対処し、社会福祉法人としての使命を十全に果たすため、先見力・発信力を重視した組織運営を志向しつつ、具体的施策を立案・実行する。

II 具体的活動計画

1. 相談事業の安定的な実施

- 1) 電話相談 ●電話相談の年中無休24時間体制を維持継続する。
- 2) インターネット相談 ●インターネットメール相談を維持継続する。
- 3) 土曜医療相談 ●協力医師による毎週土曜日の電話医療相談を継続する。

2. 相談体制の充実と強化

変化しつつある社会の中での相談活動の役割を再認識し、いのちの電話の理念に基づいた相談活動を継続・拡充するべく、相談体制の充実・強化を図る。

- 1) 電話相談員の誓約事項の遵守と、活動内容の活性化を図る。
- 2) 相談活動の現状の問題点を洗い出し、組織全体での問題意識を共有する。
- 3) 募集要項の周知の強化、応募動機への訴求拡大などによって、相談員応募の拡充を目指す。
- 4) 認定後の研修を、継続研修を基本とし、全体研修、フォローアップ研修、個人スーパービジョンとの連携を図りつつ実施する。

3. 活動への支援拡大に向けての取り組み

いのちの電話が、広く理解され、支援を得るために、積極的な広報活動に取り組む。

- 1) 後援会主催のチャリティ行事等の実施へ協力し、健全な財政を維持する。
- 2) 広報誌の刷新を検討する。
- 3) いのちの電話が持っている資源を地域に還元するべく、地方公共団体、企業、学校などに向けたアウトリーチのためのプログラムを作成し、提供する。

4. 50周年記念事業の準備

創立50周年記念事業の検討および準備を進める。

5. 社会・外部組織との関係の強化

- 1) 各種の相談ネットワークとの関係づくりを進める。
- 2) 自助活動団体などとの連携を図るための方策を検討する。
- 3) 日本いのちの電話連盟および他のセンター等との連携、協力を図る。
 - 厚生労働省補助事業自殺防止対策事業および全国研修会三重大会に参加する。
 - 他センターと協力してインターネット相談事業の拡充を図る。

役員等名簿

2020年6月1日

任期(理事・監事・顧問) 2019年5月20日～2021年定時評議員会終結時		任期(評議員) 2017年4月1日～2021年定時評議員会終結時	
理事 計11名		評議員 計13名	
末松 涉	(社福)いのちの電話理事長・研修委員長、 末松TAコミュニティ研究所所長、臨床心理士	石島 武一	(社福)聖ヨハネ会桜町病院名誉院長、 日本カトリック医師会名誉会長、土曜医療相談
大瀧 京子	(社福)いのちの電話ボランティア	岩田 淳子	成蹊大学文学部教授
大西 連	(認定NPO法人)自立生活サポートセンター・ もやい 理事長	神田 佳和	(社福)いのちの電話ボランティア
岡村 五十男	(社福)いのちの電話後援会会長	北川 逸英	日本ルーテル教団杉並聖真ルーテル教会牧師
小澤 康司	立正大学心理学部教授	清水 和良	(社福)荒川区社会福祉協議会
倉本 英彦	精神科医師	高瀬 幸子	産婦人科医師、順天堂大学・ 東京女子大学非常勤講師、土曜医療相談
栗原 郁男	(社福)いのちの電話ボランティア	谷口 尋子	(社福)埼玉いのちの電話理事
郡山 直	(社福)いのちの電話事務局長	野田 芳朗	(社福)いのちの電話後援会理事
佐藤 治隆	弁護士	樋田 大二郎	青山学院大学教育人間科学部教授
長谷部 俊治	(社福)いのちの電話ボランティア	藤盛 勇紀	日本基督教団富士見町教会牧師
逸見 敏郎	立教大学文学部教授	望月 和子	(社福)いのちの電話ボランティア
監事 計2名		矢田部 千佳子	(社福)いのちの電話ボランティア
富部 直希	税理士	山崎 隆	(社福)いのちの電話ボランティア
中村 清純	水町保険診療所医師		
顧問:	朝居 健(税理士)、福山 清蔵(立教大学名誉教授)		

50音順敬称略

後援会

いのちの電話後援会は、社会福祉法人いのちの電話の財政基盤を支え、支援の輪を広げるために、また相談員をはじめとする会員相互の親睦を図ることを目的として組織されています。

寄付金募集の協力、広報活動、財政支援事業(チャリティバザー、映画会、コンサートなど)の実施、センター内での相談員の便宜を図るために関連図書、古本販売、また書き損じはがき、未使用切手の収集を行っています。

2019年度 チャリティ事業報告

- 9月27日(金)パイプオルガンコンサート (於:霊南坂教会礼拝堂)
夜の開演にも関わらず、会場には300人を超えるお客様が集まり、2階席も含めほぼ満席となりました。オルガン奏者の西尾純子さんが迫力ある豊かな音色で曲を奏で、賛助出演の牧野さんもピアノを演奏し、感動を与える演奏会となりました。選曲などのプログラムも好評で、司会者の分かりやすい解説もあり、お客様に大変喜ばれました。また、休憩前には後援会会長よりいのちの電話の活動について紹介をし、ご理解ご協力をお願いしました。出演者のご協力もあり、OB・OG、相談員、後援会関係、外部を含めて多く方のご献金を戴きました。
- 10月19日(土)バザー(於:東京ルーテルセンター)
毎年、東京ルーテルセンターのご協力をいただき、1階と2階を主会場にバザーを行っています。開催は収益が大きな目的ですが、会員をはじめ近隣の方たちとの親睦も兼ねています。その販売品は、企業からの寄贈品および相談員からの寄付です。当日は、早朝まで雨が降りましたが、屋外での販売を予定していなかったため、慌てることなく準備を進められました。地域の方、OB・OGの方、いのちの電話関係の方、相談員やそのご家族など多くのお客様が見え、販売者とやり取りをしたり、知人同士で談笑したり、和やかな姿が見られました。外での販売が出来ない中でも、例年に近い最終収益となりました。



2020年度 チャリティ事業計画(予定)

- 8月 11日(火)被爆ピアノコンサート
会場:練馬文化センターホール
(ヴォイスケと共催、昼1回公演)
- 10月 24日(土)バザー 10:30~13:30
場所:東京ルーテルセンター
- 年度内 映画会(上映作品は未定)
会場:東京ウィメンズプラザホール

2019年度 寄付実績

社会福祉法人いのちの電話へ150万円寄付

※新型コロナウイルス感染拡大の状況により、スケジュールが変更になる場合があります。詳細につきましては、東京いのちの電話ホームページでご確認ください。
<https://www.indt.jp/>



所在地:社会福祉法人いのちの電話内

後援会役員

任期 2020年度総会~2022年度総会 ※2020年度 予定

2020年4月1日

理事等 計19名	(名誉会長)	浅見 正博	三崎 由美子	神田 佳和	(名誉顧問)	田部 誠	監事 計1名	富部 直希
	高村 治子	岡内 康子	渡邊 富子	野田 芳朗	中村 武照	正野 建樹		
	(会長)	郡山 直	植村 みどり	野呂 雅彦	小澤 格			
	岡村 五十男	徳川 信子	各務 啓子	林 義子	山田 忍			

ご支援ください

いのちの電話は相談員の無償の奉仕で支えられておりますが、24時間365日電話相談を受け付けるには、研修費・広報誌・事務費・借室料など年間約3,000万円の運営費が必要です。

その運営の大部分が皆様からの尊いご寄付に頼っております。ご寄付には個人・法人・及び相続または遺贈により財産を取得された方(相続税の申告期間内)が、当法人にご寄付された場合にも、税制上の優遇処置がございます。

皆様からのご支援よろしく申し上げます。

寄付の
送金先

【郵便振替】 00140-3-162972 社会福祉法人 いのちの電話

三菱UFJ銀行 神保町支店 普通 1084827
社会福祉法人 いのちの電話



電話相談

▶ 03-3264-4343



インターネット
相談

▶ <https://www.inochinodenwa-net.jp/>



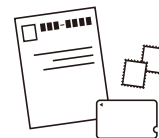
フリーダイヤル

▶ 0120-783-556

「自殺予防いのちの電話」毎月10日

●未使用ハガキ・未使用切手を送ってください

書き損じハガキや年賀状・暑中見舞いなど、使い道がなくなって家で眠っているハガキや未使用切手はありませんか。私たちの活動に大きな助けとなります。よろしくご協力お願い致します。



社会福祉法人 いのちの電話
2019年度事業報告

[発行日] 2020年6月
[発行者] 末松 渉

[事務局] 〒102-0071
飯田橋郵便局留

[TEL] 03-3263-5794 [FAX] 03-3264-4949
[H P] <http://www.indt.jp/>